

# 投稿規程

2016年3月1日 改定

## 1. 投稿資格

原則として筆頭者は千葉大学大学院看護学研究科（以下、本研究科とする）の教員とする。ただし元教員で、本研究科教員との共同研究であり、研究内容が本研究科に在職中から引き続くものに関してはこの限りではない。また、本研究科に在学中の大学院生および本研究科を修了後1年以内の者については、上記の元教員と同じ扱いとする。

なお、共著者に関しては特に制限はない。

## 2. 著作権

著作権は本研究科に帰属する。図書・紀要委員会から提示する著作権譲渡同意書に著者全員が自筆署名し、論文とともに提出する。

論文に他者の図表を転載または改変して掲載する場合には、著作権の所有者より転載・改変掲載の許可を受け、図書・紀要委員会から求められた場合はそのコピーを提出する。

## 3. 投稿論文の内容

看護学の向上と発展に寄与するものであり、未発表のものに限る。なお、他誌へ投稿中の論文は未発表のものとはみなさない。

## 4. 論文の種類

### a. 総説

看護学の特定のテーマについて、多面的に収集した国内外の知見に基づいて総合的に学問的状況を概説し、考察したもの

### b. 原著

独創的で、新しい知見が論理的に示されており、看護学の知識として意義の高いもの

### c. 研究報告

データに基づいて新しい知見が論理的に示されており、報告の意義が高いもの

### d. 実践報告

看護あるいは教育に関する意義ある活動についての報告

### e. 資料

報告の意義が認められるもの

### f. その他

図書・紀要委員会が認めたもの

## 5. 投稿手続き

- 1) 投稿原稿は3部（正本1部、副本2部）とする。
- 2) 正本は、以下の順序で作成する。
  - 1 枚目：論文名、著者名、所属、英文の論文名、英文の著者名、英文の所属、希望する論文の種類
  - 2 枚目：和文要旨（600字程度）、キーワード（5個以内）
  - 3 枚目：英文要旨（総説、原著、研究報告、実践報告には必ず、250語程度でつける）、キーワード（5個以内）
  - 4 枚目以降：本文、文献、図、写真、表など。
- 3) 研究論文の構成は、原則として、緒言（はじめに）、方法、結果、考察、結論、謝辞、引用文献、図表とする。ただし、結論、謝辞、図表は省略可。
- 4) 副本については、上記1枚目の著者名と所属を削除する。2枚目および3枚目は上記に準ずる。4枚目以降の本文に謝辞等投稿者を特定できる事項が記載されている場合はこれを削除する。
- 5) 原稿は封筒に入れ、封筒の表に次の事項を記すこと。
  - ・筆頭者名
  - ・論文題名と原稿の種類
  - ・原稿枚数（要旨、図表を含む）
  - ・図表枚数
- 6) 原稿は看護学部総務係紀要担当者に提出する。

## 6. 論文執筆要領

- 1) 論文は、和文または英文とし、ワードで作成する。英文は英語を母国語とする人によるチェックを受ける。
- 2) 投稿論文の1編は、本文および図表をあわせて下記の枚数または文字数以内とする。
  - <和文> 総説・原著・研究報告：10枚以内、実践報告・資料：7枚以内、その他：5枚以内。
  - <英文> 総説・書評・（その他）Editorial articles・Book reviews, etc.：400 words, 原著・研究報告Original articles・Research papers：2000-3000 words, 実践報告

Clinical reports : 1000-2000 words

- 3) 和文論文は、A4判用紙1頁に1行40文字、30行(1,200字)で印字する。句読点は「,」「.」を用いる。英文はダブルスペースとする。
- 4) 句読点(,)、カッコ(「, (, [ など)は1字分とする。外国語は、活字体を使用し、1字分に2文字を収める。
- 5) 章節の順序は、原則として、I, II, …; 1, 2, …; 1), 2), …; ①, ②, …とする。文中および図表中の数字は、アラビア数字かローマ数字(1, 2, 3, … I, II, III…)を用いる。
- 6) 図表はそのまま製版するので、下記に従い作成する。
  - a. 写真は鮮明なものに限る。
  - b. 図表・写真の裏面に、論文名と著者名を鉛筆書きする。
  - c. 図表の表題、内容、説明は和文あるいは英文とする。
  - d. 図表は必ず原図とする(コピーは不可)。
- 7) 文献の記載方法は下記に従う。
  - a. 引用文献は、本文中の引用順に1) 2) 式に番号をつけてリストする。
  - b. 和文雑誌は、「著者名(4名以上は『ほか』とする): 論文題名. 雑誌名, 巻(号), 頁-頁, 西暦年。」の形式で記載する。

例 森 恵美, 坂上明子, 前原邦江ほか: 高度生殖医療後の妊婦の母親役割獲得過程を促す看護介入プログラムの開発. 日本母性看護学会, 11 (1), 19-26, 2011.

  - c. 英文雑誌は、「著者名(4名以上はet al. とする): 論文題名. 雑誌名, 巻, 頁-頁(通頁), 西暦年。」の形式で記載する。

例 Aiken LH, Cimiotti JP, Sloane DM, et al.: Effects of nurse staffing and nurse education on patient deaths in hospitals with different nurse work environments. *Medical Care*, 49, 1407-1053, 2011.

  - d. 電子ジャーナルは以下の形式で記載する。なお、著者名は3名以内とし、4名以上は「ほか」(和文の場合)あるいはet al. (英文の場合)とする。

例 1) Devi S: Bahrain reduces sentences for protest doctors and nurses.

*Lancet*. 2012 Jun 23; 379(9834): 2327.

- 2) Aiken LH, Sermeus W, Van den Heede K, et al.: Patient safety, satisfaction, and quality of hospital care: cross sectional surveys of nurses and patients in 12 countries in Europe and the United States. *BMJ*. 2012 Mar 20; 344: e1717. doi: 10.1136/bmj.e1717.
- e. 単行本は次の形式で記載する。
  - i) 単著の場合は「著者名: 書名. 版, 出版社, 頁-頁, 西暦年。」とする。
  - ii) 分担執筆の場合は「著者名: 表題. 編集者(編) 書名. 版, 出版社, 頁-頁, 西暦年。」とする。
  - iii) 訳本の場合は「原著者(訳者): 和文書名, 版, 出版社, 頁-頁, 西暦年。」とする。

例 1) 中井久夫: 中井久夫著作集5巻 病者と社会. 第1版, 岩崎学術出版社, 3-27, 1991.

2) 伊藤公雄: 父親のゆくえ. 井上真理子, 大村英昭(編), ファミリズムの再発見. 第2版, 世界思想社, 171-202, 1998.

3) Pender NJ (小西恵美子 監訳): ペンダーヘルスプロモーション看護論. 日本看護協会出版会, 232-233, 1997.

なお、電子出版については、上記の各形式に則って記載し、西暦年の後に「入手先」とそのURLを記載すること。

  - f. ウェブサイト関連の文献については、次の形式で記載する。
    - i) 政府等の公的なウェブサイトに掲載されている刊行物を引用する場合は、文献として取り扱い、以下の形式で文献リストに記載する。

例 厚生労働省: 平成23年版 厚生労働白書 社会保障の検証と展望～国民皆保険・皆年金制度実現から半世紀～, 第1部 社会保障の検証と展望 ～国民皆保険・皆年金制度実現から半世紀～, 5-31, <http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/11/dl/01-01.pdf> (2012年7月20日アクセス)

  - ii) 政府等の公的なウェブサイト以外のサイト、ブログ、メールマガジン等につい

ては、引用の必要性を十分に検討した上で、本文中に（ ）を付して、URLと最終アクセス年月日を記載する。

例 ○ ○ 患者会からの報告によると  
(URL, 2012年7月20日アクセス),  
…

8) 単位は、m, cm, mm, g, mg, L, mLなどとする。なお、単位名省略のうしろには点をつけない。

9) 研究や実践上の倫理的配慮について記載する。

#### 7. 倫理的配慮

人および動物が対象である研究等は、千葉大学大学院看護学研究科倫理審査委員会等の承認を得たうえで、倫理的に配慮されて実施され、その旨が本文中に明記されていること。

倫理審査委員会の審査が不要とされた研究や実践についても、研究や実践上の倫理的配慮について記載すること。また、論文の種類に関わらず、公開について関係者（研究対象者および関連の施設等）から文書による許諾を事前に得ておき、図書・紀要委員会から求められた場合はそのコピーを提出する。

#### 8. 利益相反

利益相反（COI）関係については、本文の末尾すなわち謝辞または文献の前に記載する。

COI状態がない場合は、「申告すべきCOI状態はない。」などの文言を記載する。

#### 9. 校正

初稿は著者校正とし、大幅な加筆修正は認めない。

#### 10. その他

1) 投稿論文の採否および種類の決定は、査読を経て図書・紀要委員会が行う。査読者は図書・紀要委員会が依頼する。

2) 採択された最終原稿には電子ファイルを添付すること。その際、ファイルはメール添付あるいはUSBメモリにより、Word等編集可能なデータに、氏名を付して提出する。なお、ファイルにはパスワードを付すこと。

## 編集後記

平成29年度は、紀要の創刊号から40周年を迎えました。昭和54年3月の創刊号の編集後記には、紀要は看護学の道しるべとして創刊されたとありました。時代の変化に柔軟に対応し常に高さものを目指す大学のスピリッツで毎年発行されてきた紀要は、本研究科教員と研究者の研究教育活動や社会貢献の内容を公表する媒体として、また幅広い討論の場として充実が図られてきました。これまでご尽力いただいた皆様に敬意を表します。

本号には、原著1編、研究報告4編、実践報告6編、資料1編の合わせて12編の論文に加えて、千葉大学看護学部公開講座および国際交流の報告を掲載することができました。論文の共著者には、学内外や海外の教育研究者を含み、本研究科のネットワークの広がりがうかがえます。また、平成17年度に本邦初の設置となった乳がん看護認定看護師の教育課程は、その役割を終えてたところで実践報告として投稿いただきました。今後ますます多くの方々の投稿をいただき、教育、研究、社会貢献や交流が充実していくことが望まれます。

最後に、下記の方々には、ご多忙のところ各論文の看護学における意義をとらえ丁寧な査読をいただきました。厚くお礼申し上げます。また、発行までの事務を円滑に調整いただきました白井あずみ様、米田礼様、田籠暁子様はじめ、事務部の皆様に御礼申し上げます。

(野地有子)

紀要第40号の査読は、次の方々と図書・紀要委員が行いました。

石橋みゆき、今村恵美子、北池 正、酒井郁子、諏訪さゆり、田中裕二、手島 恵、  
中山登志子、増島麻里子、宮崎美砂子、森 恵美、山本利江 (五十音順)

図書・紀要委員

雨宮 歩、小川俊子、佐藤奈保、錢 淑君、永田亜希子、野地有子 (五十音順)

---

---

### 千葉大学大学院看護学研究科紀要 第40号

平成30年3月発行

発行人 千葉市中央区亥鼻1丁目8番1号  
千葉大学大学院看護学研究科  
Tel: 043-222-7171 (代)  
ホームページ <https://www.n.chiba-u.jp/>

制作 (有) B・D・S  
印刷 Tel: 043-214-8551

---

---

---

---

・千葉大学看護学部紀要

第1号（昭和54年3月発行）～第32号（平成22年3月発行）

・千葉大学大学院看護学研究科紀要

第33号（平成23年3月発行）～第40号（平成30年3月発行）

---

---